

編集後記

今年には東日本大震災から 10 年が経過した節目の年になりました。部会発足から発行してきた部会報も、見返してみますと震災以降しばらくの間は隔年の発行になるなど、その影響を受けていたのだと改めて感じました。また、今年度は新型コロナウイルスの影響で、予定されていた定例研究会やサマーセミナーが中止になるなど部会活動は大きな制限を受けました。そのような中で新たにリモート化推進ワーキンググループを新たに発足させ、昨年秋の運営小委員会から Web 会議システムを活用できるようになりました。年初めには 2 回目となる緊急事態宣言が一部の地域に出され、新規感染者数も減少傾向に向かっていますが、定例研究会と全体会議が初めて Web 形式で行われるなど、まだその影響がいつまで継続するか予想できない状況が続いています。

2015 年以降 PWR では 9 基の再稼働が実現されましたが、BWR の再稼働はまだ実現できていません。この冬の寒波と天候不順による再生エネルギーの発電量減少により電力供給の安定に必要な予備率を下回るなど、再生エネルギーに頼るエネルギー構造の脆弱性が明らかになると共に、二酸化炭素排出量の削減への要求が一層増す中で、原子力発電のベースロードとしての重要性が再認識されてきました。再稼働したプラントでは安全性を最優先にした安定運転の継続と、まだ再稼働できていないプラントでの早期再稼働の実現を通して社会に貢献する必要があり、水化学部会の関与できる範囲は限定的かもしれませんが、少しでも貢献していきたいと思えます。

最後に、この 4 月より運営小委員会選挙の結果を受けて新たなメンバーを迎え入れて、新たに部会活動の再活性化を図ることができることを祈念するとともに、お忙しい中、原稿を準備いただきました久宗、高木両副部長をはじめとした執筆者の方々に改めて御礼を申し上げて筆を置かせていただきます。

(日立 GE ニュークリア・エナジー 長瀬 誠 記)